

## アドバンス・ケア・プランニング(ACP)講演会

### 1. 日本人の死生観から考えるACPの理念と意義

Carl-bradley Becker 氏

【日本語でのご講演です】

### 2. ACPの啓発・実践・評価・研究

Karen Detering 氏

【日本語逐次通訳あります】

日時：2018年6月18日(月) 16:00～18:30

場所：国立長寿医療研究センター 外来棟7階 多目的ホール

超高齢・多死社会のわが国において本年3月に厚生労働省の「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」が改訂され、病院と地域包括ケアシステムにおける在宅医療・介護現場において、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の重要性が提唱されるようになりました。京都大学のカール・ベッカー教授が、医療倫理学の視点からACPの理念と意義を話されます。そして、International Society of Advance Care Planning and End of Life Care (ACPEL)の発足メンバーで、オーストラリアでのACP推進のリーダーのKaren Detering先生が、ACPの普及・啓発の事始めから、将来の展望まで、とくに2010年British Medical Journalの世界初のACPのRCTの体験談を中心に講演されます。



**Karen Detering先生**

Advance Care Planning  
Australia 理事

呼吸器内科医のDetering先生はオーストラリアメルボルンのオースチン病院で、病状が落ち着いた患者にACPを行った群と対照群を比較し、世界初にACP群に本人の医療・ケアの意向が叶ったケースが多く、遺族のうつ病の発症率も低かったというACPの効用を報告された、ACPの啓発・実践・評価・研究の第一人者です。オーストラリアでACPの機会を提供し、ACPを活かした医療・ケアが受けられるような枠組みの構築に貢献されています。



**カール ベッカー先生**

(Carl-bradley Becker)

京都大学 学際融合教育研究推進  
センター 政策のための科学ユ  
ニット 教授

ハワイ大学の学生時代に日系人の死生観について考察されたことから、1983年にフルブライト奨学金で大阪大学の講師として来日されて以来、天理大学、筑波大学、そして1992年より京都大学で哲学、宗教学、医療倫理学の立場から、人生の最終段階のケアから遺族の悲嘆まで、理想的な死のあり方について幅広く研究・教授されています。

**ACPについて:** 患者の意思決定能力の低下に備えるために、医療・ケア従事者が十分な情報提供の上で、患者の意思決定を支援し、共有する、患者・家族との双方向の議論(コミュニケーション)とその過程がACPである。患者の医療・ケアに関する価値観や意向を確認し、胃ろうや人工呼吸器などの医療の選択だけではなく、「心地よさ優先」あるいは「延命至上」といった医療・ケア全体の目標を明確にする。同時に意思決定能力が低下した時に患者に代わって意思決定する者を指名する。